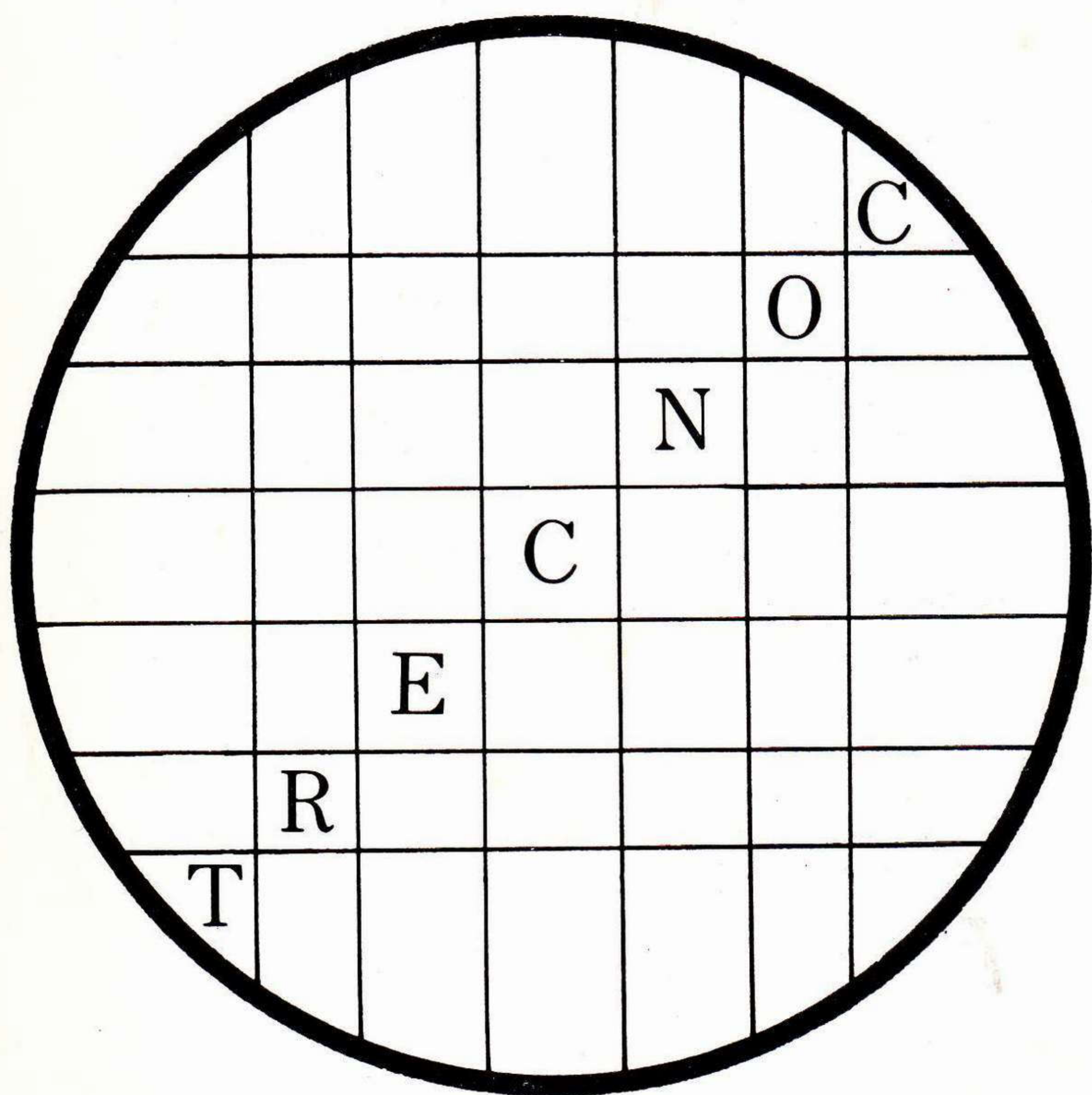
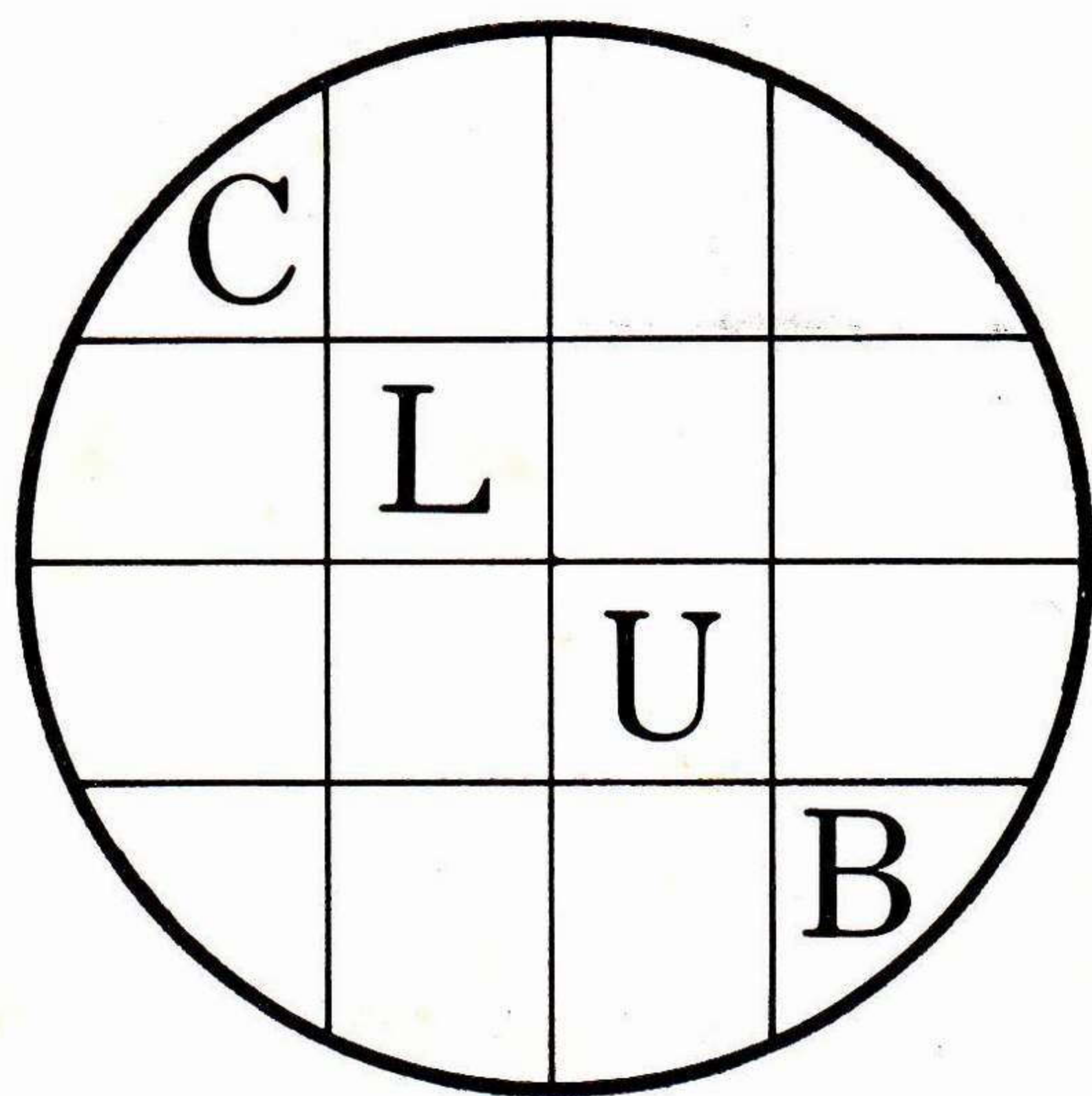
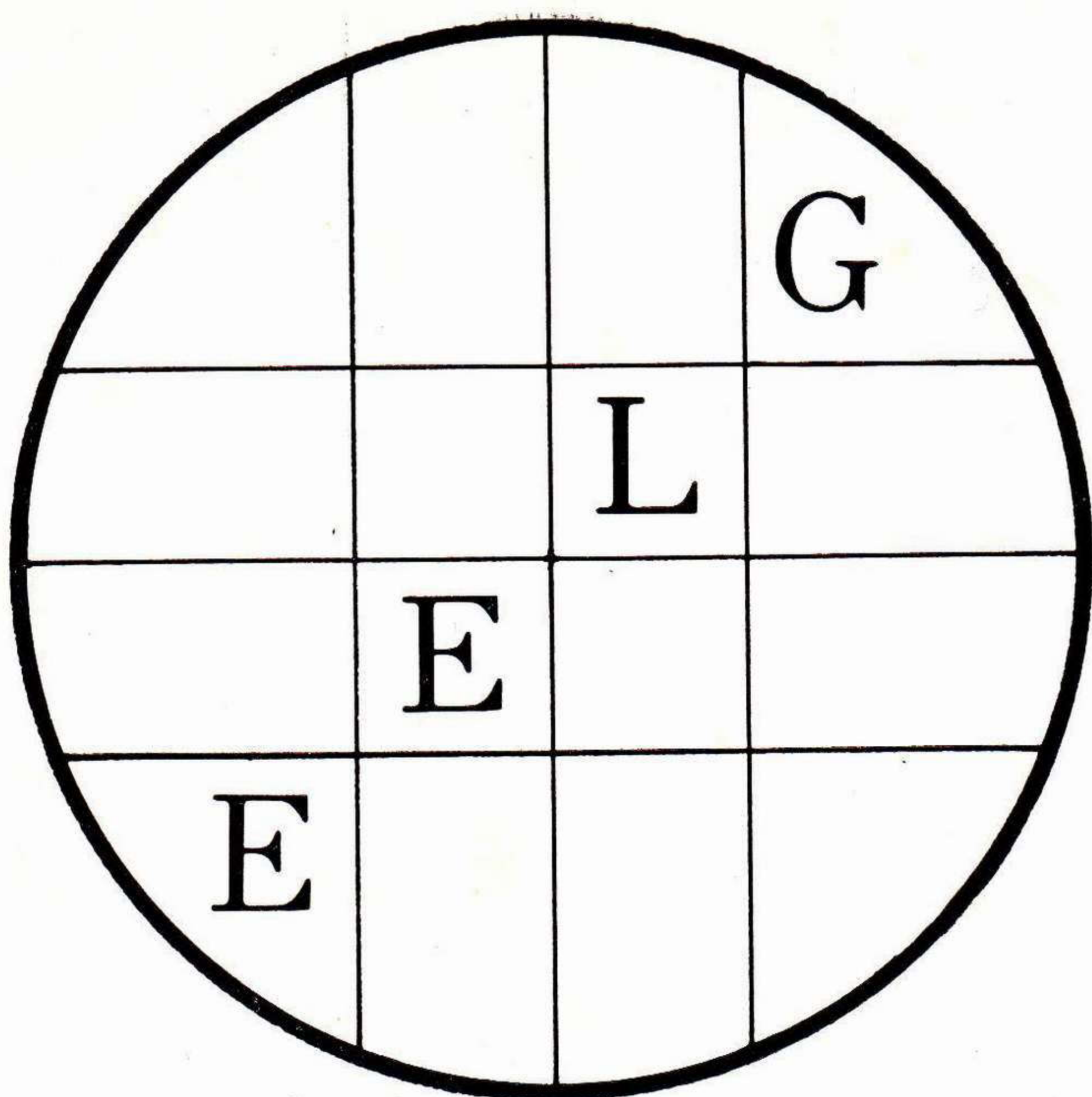




大阪外国語大学

大阪外国語大学グリークラブ

一 宮 演 奏 会

1969年3月7日(金) 午後6時半開演

於 一 宮 勤 労 会 館

賛助出演 コーラル ソサイティ

— ご あ い さ つ —

今宵は私達の演奏会にお越し下さいまして有難うございます。

春の訪れと共に木の芽も萌えいつる頃となり、私達は春の休みを利用致しまして日頃の練習の成果を披露させていただくための演奏の旅にやってきました。学業の余暇に集いコーラスを楽しみコーラスに情熱をかたむけております私達の合唱団は未熟ながら、あくまでも純真な学生合唱団として、皆様のご期待にそえるものと思います。

どうぞ特別の思召をもちまして御鑑賞の上、御批評、御指導たまわりますようお願い申し上げます。

終りに御当地での演奏会に際し、何かとお世話下さった方々に対し一同心よりお礼申し上げます。

大阪外国語大学グリークラブ部員一同

PROGRAMME 1

GAIGO WILL SHINE TONIGHT

大阪外国語大学校歌

I ドイツ歌曲集 指揮 天野邦彦

Der frohe Wandersman

Die Nacht

Gottes Rath und Sheiden

Der Lindenbaum

曲 目 解 説

SchubertとMendelssohnの曲を2曲ずつとりあげてみました。彼らについては今更説明を要しないでしょう。どうか充分にお聴き下さい。

Der frohe Wandersman (楽しきさすらい人) メンデルスゾーン

恵まれしものこそ 世をばめぐりゆけ 自然の驚きは 森岩野に満つ
山辺に湧く泉 野にうたう雲雀 いざ我も歌わん 自然を讃えて
神こそ賢けれ 山河をつくり 日月星をささえ 善をば為したもう

Die Nacht (夜) シューベルト

美わし 静けき憩いよ みよ 星の影は清くまたたきて
我等 見守るよ 静けき空のかなたに

Gottes Rath und Scheiden (別れの歌) メンデルスゾーン

いとしき者共 さだめの間に間に 別れを告げめ この世に悲しき
者こそ 別れよ別れ バラの花束を水がめにさして 見よや見よや
明日に開きて 夕べはしぼむを 見よや見よや見よ
今、我別れて知らず また会う日 別れの言葉には さよなら さ
よなら また会う日まで さよなら

Der Lindenbaum (菩提樹) シューベルト

泉にそいて 茂る菩提樹 慕い行きてはうまし夢みつ
幹には彫りぬゆかし言葉 うれしかなしに訪いしその影
今日もよぎりぬ暗き小夜中 真闇に立ちてまなこ閉ずれば
枝はそよぎて語るごとし 来よいとし友ここに幸あり

PROGRAMME 2

II 中原中也詩集

指揮 安藤 雅之

北 の 海

テナーソロ 佐藤 謙司

早 春 の 風

汚れっちまった悲しみに

月 の 光

また来ん春

テナーソロ 藤原 克司

III 賛 助 出 演

Choral Society

指揮 針原 正喜

IV 黒 人 霊 歌

指揮 天野 邦彦

Go Down Moses

ソロ 大井 耐三

Wade in de Water

Deep River

Jerusalem Morning

ソロ 家城 義男
佐藤 謙司

He Never Said

A Mumblin' Word

ソロ 安藤 雅之

Soon Ah Will Be Done

曲 目 解 説

中原中也詩集

現実的な煩悶と絶対に対する憧憬との交錯 その意味では詩人中原中也は Romantic の変形である。生活伝統における外的規制、外的秩序の拒否は、彼の内的創造性を奮気さしめ、自己主張という形態で以って詩に表れる。然しそれは生に対する積極的な主張ではなく倦怠や虚妄、或いは一種の不安を伴った消極的破滅的な人生論的主張である。こうした中也の詩情をどこ迄理解、どこ迄表現出来るかは分りませすが、卒直な御批評でもお聞かせいただければ幸いかと存じます。

尚、この「中原中也詩集」は中原中也の詩より」と「在りし日の歌」からの抜萃構成です。

Negro Spirituals 黒人霊歌

主はモーゼに命じた。「ファラオの許に行きて告げよ。我に仕える民を解きて行かしめよ」と。

Go Down Moses 行けモーゼ

圧制の解放者モーゼを憧憬する歌で、出エジプト記に黒人は自分の境遇を見い出しています。

Wade in de Water 海を渡れ

「主にむかって歌え、彼は輝しくも勝利を得られた。彼は馬と乗り手を海に投げ込まれた」黒人は、主が彼らの救い、力となることを願いました。

Deep River 深い川

深い川、おお主よ。私は河を越えてあのなつかしい土地に行きたい。ヨルダン河の彼方にある私の家に……と歌われるもので、自由と幸福を求める悲痛な心情のあふれている歌です。

さあ語って下さい。イエルサレムの事を。主の事を。私を狂おしくさせる神の事を。私に話して下さい。

Jerusalem Morning イエルサレムの朝

苦しい生活を送っていた黒人は、キリスト教にその救いを見出し、長老達の話を通してその教えを学んだのです。

He Never Said A Mumblin' Word 一言も洩らさず

十字架につかれたイエスが、一言も苦しみを口にされなかった姿を思い、その尊さの余り、黒人は彼らの苦悩をわずかの時間ではあるが忘れることが出来ました。

おお自由を、おお自由を、自由を我等に、奴隷たらんより死して葬られ、我等神のふるさとに自由とならん。

Soon Ah Will Be Done

生命の炎が消えると、この世の辛苦ともおさらば。早く死んでイエス様のところに行きたいものだ。

大阪外国語大学グリークラブ部員名簿

・顧問	住田照夫	(中国語料教授)
・部長	柳沢長四郎	インドネシア語 3年
・指揮者	天野邦彦	英語 3年
・副指揮者	松岡一仁	英語 2年
・外渉	南雄次	ロシア語 2年
	山本修司	英語 1年

First Tenor

板村哲也	S ₄	(甲陽)	藪庄次郎	T ₄	(膳所)
○遠藤弘三	D ₃	(住吉)	徳永光庸	R ₃	(茨木)
柳楽行雄	S ₃	(出雲)	天野邦彦	E ₃	(倉吉東)
小竹正幸	R ₂	(金沢二水)	勝田茂	P ₁	(塔南)
葉山英行	E ₁	(島田)	藤原克司	R ₁	(天城)

Second Tenor

塩見憲一	E ₄	(芦屋)	安藤雅之	E ₄	(一宮)
佐藤謙司	S ₃	(一宮)	日根野谷博	I ₃	(三国丘)
村田要志夫	S ₃	(池田)	柳沢長四郎	N ₃	(野沢北)
○山口正晴	E ₃	(今宮)	明場幹夫	R ₂	(倉吉東)
加藤直樹	S ₂	(小倉)	木村長俊	E ₁	(福井藤島)
宮原康一郎	E ₁	(那覇)	山本修司	E ₁	(茨木)

Baritone

梶江靖史	N ₄	(福山葎陽)	浜崎慎吾	R ₄	(兵店)
○井上尚弘	C ₃	(綾部)	小野田裕司	E ₃	(高岡)
奥野薫	R ₃	(西舞鶴)	河嶋靖夫	P ₃	(加悦谷)
鵜飼茂	N ₂	(甲賀)	南雄次	R ₂	(八尾)
松岡一仁	E ₂	(阪南)	竹尾彰	N ₁	(西南)
岡本精二	E ₁	(神戸)			

Base

大井耐三	S ₄	(広大付属)	家城義男	H ₄	(豊岡)
野間清治	E ₄	(茨木)	三沢弘	C ₄	(浪速)
竹井禎	E ₃	(丸亀)	西村裕	E ₃	(御影)
○真鍋一史	D ₃	(新居浜西)	奥村茂	S ₂	(四日市)
内海卓也	A ₁	(東舞鶴)			

A (アラビア語) D (デンマーク語) E (英語) C (中国語)
 H (インド語) I (イタリア語) N (インドネシア語) P (ペルシア語)
 R (ロシア語) S (イスパニア語) T (タイ語)

○印はパートリーダー